

金比羅宮への初詣

短 17(昭 52)年卒右城 猛
(株) 第一コンサルタンツ
代表取締役社長

私は、平成 18 年、54 歳のときから毎年欠かすことなく金刀比羅宮に初詣をしている。動機は 3 つあった。

1 つは厄払い。平成 17 年は私にとって最悪の年であった。1 月 12 日に父が心筋梗塞で突然他界。その直後には私が糖尿病で入院した。4 月には、ある雑誌に掲載された私の記事に対して読者からクレームが入った。7 月には大学に行っていた娘が大きな交通事故を起こすなど、災いが次から次へと襲ってきた。見放された運をなんとか引き戻したいと思ったのである。

2 つ目は運動のため。金刀比羅宮に参拝するには 785 段の石段を登らなければならない。糖尿病には良い運動になると考えたのである。

3 つ目は私が開発に関与した製品の普及祈願。平成 14 年に製造・販売を開始した製品は、その年に高知県のエコ産業大賞の「大賞」を受賞。翌年にはテレビ番組「企業未来・チャレンジ 2 1」で全国に放映されるなど順調な滑り出しであったが、その後いろいろな問題が発生し、解決を迫られていたのである。

私はこれまで信仰心の欠片も持っていなかった。しかし最近、金比羅参りをすれば必ずご利益があると思うようになった。

金刀比羅宮に行ってもまず驚かされるのは、参道の両脇に寄進者の氏名と金額を刻んだ石柱が無数に立てられていること。大きい石柱には金一封と刻まれている。1 千万円以上寄進されているのだろう。

金刀比羅宮には毎年 100 万人が参拝している。御利益がなければ、何百年も信仰が続けられるはずがないと思うのである。

初詣を行った年から不思議と不運に見舞われることがなくなった。開発した製品の問題も無事解決し、大ヒット商品になった。

国や県の公共事業予算は、平成 10 年をピークに毎年削減され平成 19 年にはピーク時の 1/3 まで落ち込んだ。会社の業績もピーク時の 1/2 まで落ち込み営業損が出るまでになっていた。

そんな折に社長に就任した。この危機から脱出するには、これまで以上に神様のお力添

えをいただかなければならない。平成 20 年からは本宮だけでなく、さらに 583 段奥にある巖魂(いづたま)神社まで足を伸ばしている。

平成 20 年度を底に会社の業績は順調に回復し、平成 25 年に創立 50 周年を盛大に祝うことができた。今年の 9 月には念願の新社屋を新築し、盛大に落成祝賀会を挙げてきた。

プライベートでは二人の娘が結婚し、三人の孫に恵まれた。今年の 5 月には、南国市に二世帯住宅を新築し、次女たちと一緒に住んでいる。

金刀比羅宮には、参拝者が守らなければならない「金刀比羅本教憲五条」がある。少し長いが全文を紹介する。

- ① 自己の生命は遠い祖先の神々に連り、なお子々孫々に繋がる永遠かつ絶対であることを忘れないこと。
- ② 自分も神の分身であるから日々祓の修行を怠らないで心身共に清浄潔白を保つように勉めること。
- ③ 不平を言ってはならない。神恩の感謝と喜びを祓以て一切を処理すること。
- ④ 神人合一の境地に達するためには浄明・正直を旨としなければならない。
- ⑤ 人は何れ高かれ低かれ神となるものであるから、高い神となるよう日々の修行を怠ってはならない。

もう少しで金比羅初詣 10 周年を迎えるが、未だに教憲五条を守れていない。

社屋新築を機に社長室に神棚を構え、日々精進を心掛けている。



金比羅宮巖魂神社(2015 年 1 月 2 日)